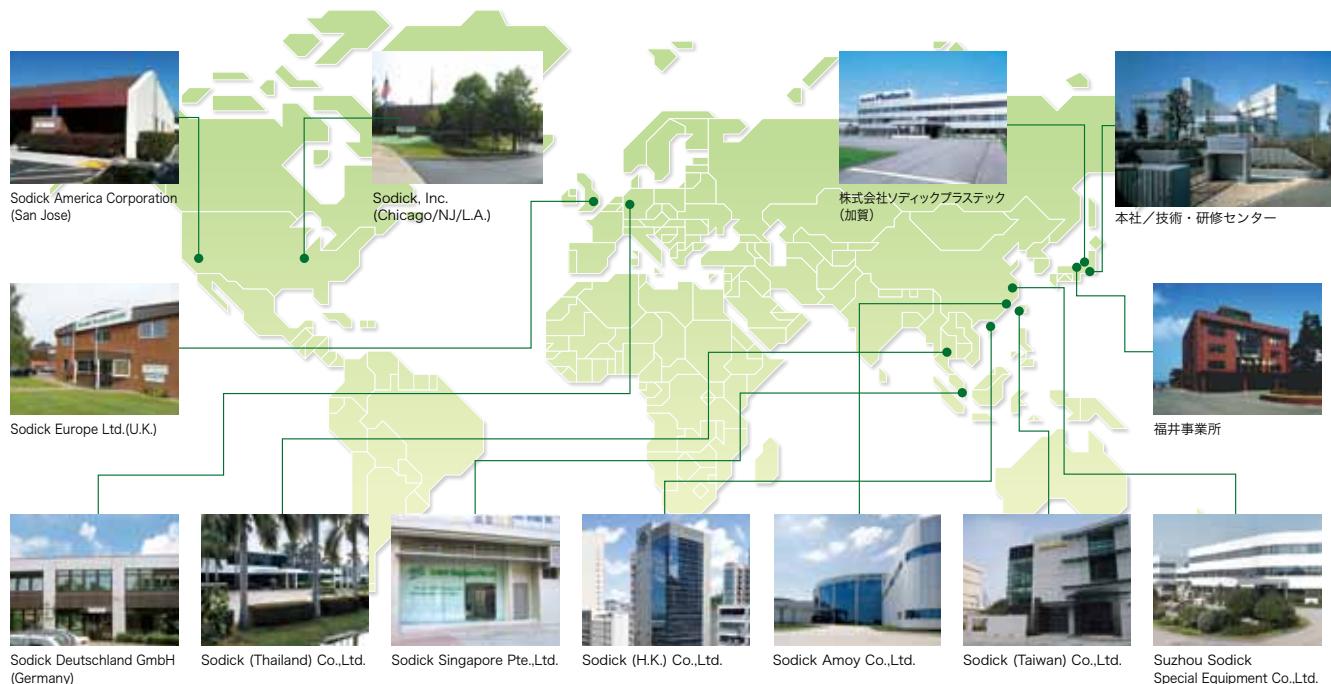


世界の主要拠点 (平成24年3月31日現在)

国内

本 社	横 濱					
営業拠点	仙 台 松 本	太 田 静 岡	大 宮 名 古 屋	東 関 東 大 阪	横 濱 岡 山	福 井 福 岡
事 業 所	福 井		加 賀			



Sodick
株式会社 ソディック

〒224-8522
 横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号
 TEL: 045-942-3111
 FAX: 045-943-5835
 (証券コード: 6143)



●この冊子はFSC森林認証用紙と植物性インキを使用しています。

ホームページのご案内

<http://www.sodick.co.jp/>

株主の皆様からの声をお待ちしております。

当社では、株主の皆様からのご意見・ご質問をお受けしております。
 お気軽に下記のメールアドレスまでお寄せください。

メールアドレス ir@sodick.co.jp



モバイルサイトのご案内

<http://www.sodick.co.jp/mobile>

展示会情報・サポート情報・ソディック製品にまつわる最新情報等を
 随時更新しています。



未来を創る

第36期

事業報告書

平成23年4月1日～平成24年3月31日

Sodick
Business Report



株式会社 ソディック

Sodick Corporate Highlights

NEWS

日本初“ISO22000” 認証取得

当社グループの食品機械事業が、食品安全マネジメントシステムの国際規格である“ISO22000:2005”認証を取得しました。日本国内の食品装置の製造メーカー〔フードチェーンカテゴリ-K(装置の製造)〕がISO22000認証を取得するのは当社グループが初めてです。日本の食品製造装置メーカーで唯一のISO22000認証済み企業である強みを活かし、将来性豊かなアジア市場向けの輸出販路の開拓を目指してまいります。



新製品

高性能ワイヤ電極線 はやぶさワイヤ

はやぶさワイヤの特長

放電加工機用のワイヤ電極線は銅と亜鉛で構成されています。はやぶさワイヤは、外周部の亜鉛濃度を高めることにより良好な放電状態を維持し、加工速度の30%UP(従来製品比)を実現しました。

高性能ワイヤ電極線・はやぶさワイヤは、加工時間の短縮と省エネ性の向上に貢献いたします。



CONTENTS	Sodick Corporate Highlights	1	当期の業績/連結財務諸表(要旨)	7-8
	株主の皆様へ	2	株式情報/株式分布/会社概要/役員	9
	グローバルネットワークとセグメント別概況	3-4	株主メモ	10
	特集 金子新社長に聞く 今後のソディックグループ	5-6		

株主の皆様へ

未来を創る

株主の皆様におかれましては、平素より格別のご支援を賜り、厚く御礼申し上げます。このたび株式会社ソディックの代表取締役社長に就任いたしました金子でございます。第36期は、東日本大震災の復興からスタートし、10月にはタイの洪水により多くの日本企業が被害にあわれ厳しい状況に直面いたしました。当社のタイ工場においても浸水被害を受けましたが、中国の工場への代替生産とタイ工場の復興が順調に進み、生産への影響を最小限に抑えることができました。しかしながら、一部のお客様にはご希望された期日に納品できないなどのご迷惑をおかけする結果となり、この場を借りて深くお詫び申し上げます。

今後の取組について

世界中の多くのお客様に安心してソディック製品を利用していただくため、高性能、高機能であり、同時に低価格を実現する必要があります。

その実現のため、下記を重点課題と考えています。

- 経営管理コスト低減とスピードアップには、無駄のない組織と効率的システム作り
- 開発設計・製造・サービスの総合的なコストダウンには、コアコンピタンスを維持したグローバル化が必要で設計のモジュラー化とシステム化、どこでも製造できる仕組、製造手法の工夫
- 原材料のコスト低減には、調達改革とグローバル化
- 時代の変化にすぐに対応できる柔軟な思考と知識の吸収が必要で、グローバルに活躍できる若手の登用、教育
- 最先端ハイエンド機と有望市場をターゲットにした戦略機種種のバランスを追求

特に放電加工機事業では、世界の全ての市場においてシェア40%を、射出成形機事業では、海外売上高比率70%を目指します。

食品機械事業では、中国、アジア地区の即席麺巨大市場向け製麺設備の開発生産を急ぎ、要素技術事業では、モーション関連技術製品の販売と省エネ効果の高いLED照明販売を強化いたします。

「創造」「実行」「苦勞・克服」の信念の下、社業の発展のため精励いたします。

株主の皆様におかれましては、より一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

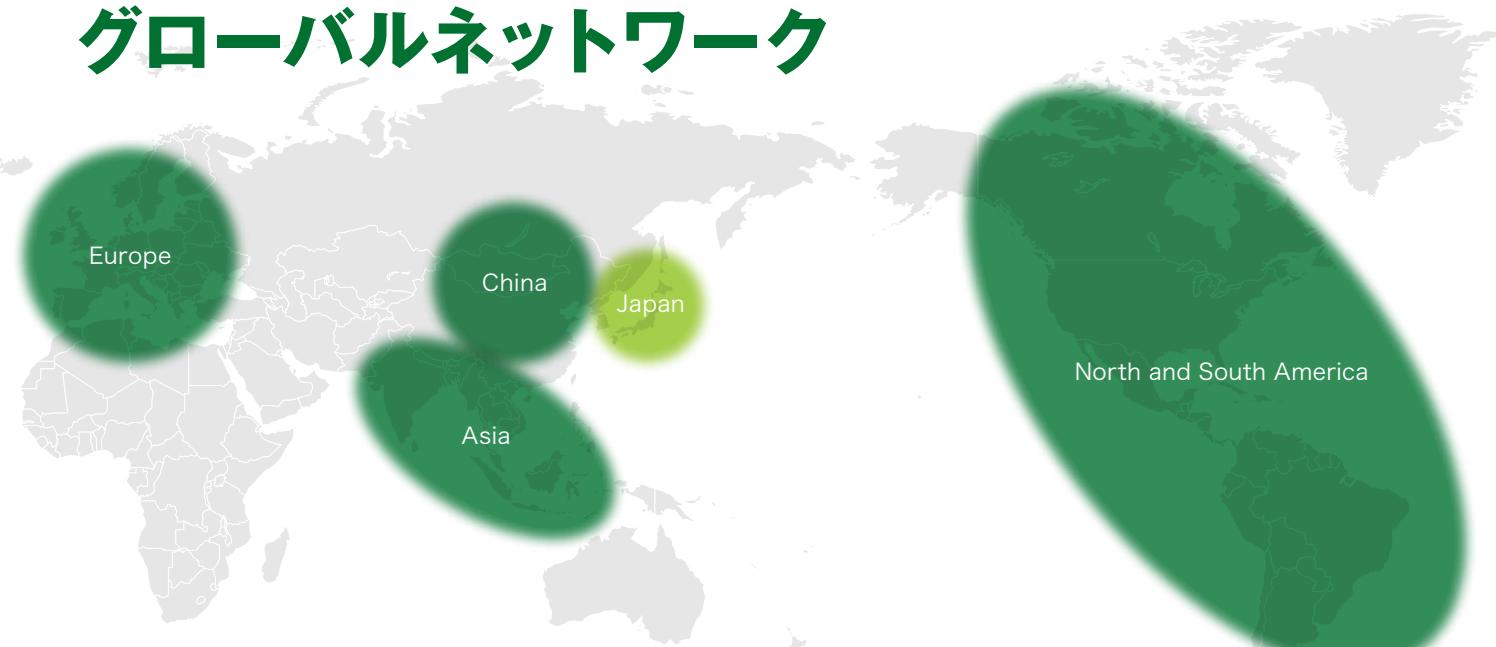
代表取締役社長 金子 雄二

配当について

当社は大切な資本をお預かりさせていただいた株主の皆様に対し、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定的かつ継続的な配当を実施することを基本方針としています。そこで株主の皆様に対する利益還元は、当該年度の業績や資金収支などを総合的に判断して行うこととしており、株主資本配当率(DOE)2%以上を目標として考えております。

平成24年3月期の利益配分につきましては、基本方針と収益状況から判断し、期末配当を1株当たり6円とし、第2四半期末配当(1株当たり5円)と合わせ、年間配当は1株当たり11円といたします。また、平成25年3月期の第2四半期末及び期末配当金はそれぞれ1株当たり6円とし、年間配当金は1株当たり12円とする予定です。

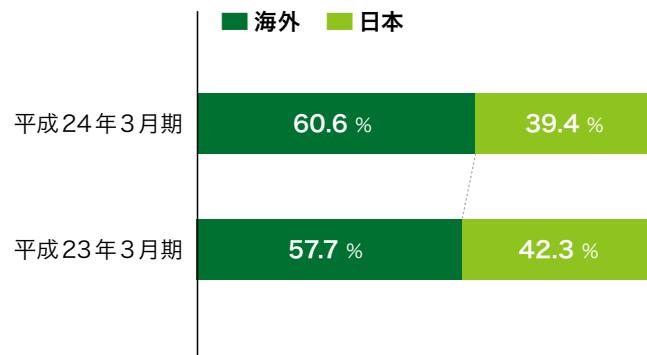
グローバルネットワーク



世界中のものづくりを支えるために、
開発、生産、販売拠点のグローバル化を促進しています。

グローバル化の加速に伴い、海外売上高は拡大しています。ソディックグループは、日本や欧米などの先進工業国だけでなく、経済成長著しい新興国にも進出しています。その新興市場の代表的地域である中国では、1990年代の初頭より積極的にビジネスを展開しており、中国経済の成長に伴いソディックグループは大きな成果をあげております。同地域における販売・サービス網は、台湾を含めて中国全土に27ヶ所設置された営業・サービス拠点により構成されており、この充実したネットワークにより、お客様が安心して機械をお使いになれるきめ細やかなサービス提供が可能になっています。今後はインドやブラジルなど新市場にも注力し、世界中の「ものづくり」に一層貢献してまいります。

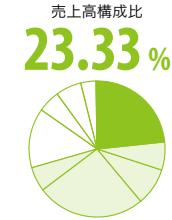
■ 海外売上高比率



セグメント別概況

工作機械事業（日本）

国内の製造業においては、震災によるサプライチェーンの混乱や電力の供給不安、急激な円高の進展に見舞われるなど、事業活動は大きな制約を受けましたが、当社グループは加工セミナーを開催し、様々な加工方法をユーザーに提案するなど、積極的な営業活動を展開しました。また、当セグメントには海外（韓国、台湾、インド等）への輸出版売分を含んでおりますが、下半期以降の台湾や韓国の設備投資需要が低迷し、当該地域への売上は減少しました。上記の結果、当事業の売上高は124億90百万円となりました。



工作機械事業（欧州）

欧州地域では、金融危機の影響が危ぶまれ続けましたが、自動車産業など輸出関連分野に旺盛な設備投資が見られました。上記の結果、当事業の売上高は48億11百万円となりました。



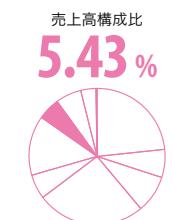
工作機械事業（その他アジア）

当地域ではタイ国の洪水の影響により一時的に需要が減少しましたが、その後の復興需要もあり回復基調で推移しました。上記の結果、当事業の売上高は31億4百万円となりました。



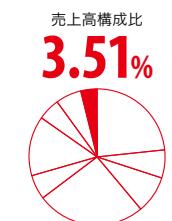
精密金型・精密成形事業

当事業においては精密コネクタなどの精密成形品の製造を行っております。主要な需要先であるハイブリッドカーの生産量が震災の影響から回復しつつありましたが、タイ国の洪水発生により低調に推移しました。上記の結果、当事業の売上高は29億6百万円となりました。



要素技術事業

当事業は、セラミックス製品の製造販売、モータの製造販売、金型生産統合システム、LED照明器具の販売から構成されております。当事業の売上高は18億77百万円となりました。



工作機械事業（北・南米）

北米地区では、医療機器向けや航空宇宙産業向けの需要が堅調に推移したことに加え、自動車向けの設備投資が順調に推移しました。上記の結果、当事業の売上高は35億78百万円となりました。



工作機械事業（中華圏）

中国、台湾においては、中国経済の活況に支えられ上半期はスマートフォンなどの精密電子機器から家電、自動車関連向けまで幅広い分野で設備投資が活発でしたが、下半期より中国政府の金融引き締め政策の影響が顕在化し始めました。上記の結果、当事業の売上高は138億4百万円となりました。



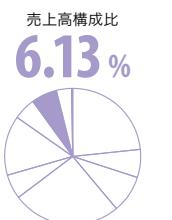
産業機械事業

当事業の主力製品である精密射出成形機は、国内市場ではスマートフォン関連需要が好調だったものの、韓国や台湾などの海外市場の需要に回復の遅れが見られ、弱含みで推移しました。上記の結果、当事業の売上高は75億66百万円となりました。



食品機械事業

当事業は各種製麵機、麺製造プラントなどを中心に事業を展開しております。当期においてはタイ国において受注した大型案件に注力しました。同案件は受注から納品、検収まで1年以上を要する案件であったため費用が先行して発生することとなりましたが、第4四半期に無事完了し、当事業はほぼ計画通り推移いたしました。上記の結果、当事業の売上高は32億82百万円となりました。



その他の事業

その他は、パンフレットなどの印刷物の製作事業や放電加工機、マシニングセンタ及び射出成形機などのリース事業から構成されております。上記の結果、当事業の売上高は1億6百万円となりました。



金子新社長に聞く

今後のソディックグループ

今後の持続的な成長に向け、 グループ全体の改革に取り組みます

代表取締役社長

金子 雄二

プロフィール

昭和56年 4月 当社入社
 平成 4年 5月 当社研究開発本部次長に就任
 平成 5年 6月 当社生産本部エレクトロニクス技術部長に就任
 平成11年 7月 当社研究開発本部研究開発グループマネージャーに就任
 平成12年 2月 Sodick America Corp. 取締役社長に就任
 平成16年 4月 当社研究開発本部長に就任
 平成16年 6月 当社取締役研究開発本部長に就任
 平成16年11月 当社アドバンスト研究本部本部長に就任
 平成20年 6月 当社常務取締役研究開発担当に就任
 平成22年 4月 当社商品技術担当に就任
 平成22年 6月 当社専務取締役就任

Q1. 社長就任に当たっての抱負をお聞かせください

今年は長年にわたりソディックグループの大きな柱として射出成形機事業で実績を上げてきたソディックプラスチック社を合併(平成24年7月1日付け)するという節目の年にあたります。昨年の10月にタイ工場が洪水の被害を受けましたが、それを契機として事業の垣根を越えた生産体制の再構築を行っている最中でもあり、今年はソディックグループ全体の改革の年ともいえます。このような変化の年に社長に就任するという事は、本当に身が引き締まる思いです。この大きな変化を確実に飛躍に

つなげなければ意味がありません。私は本年から2~3年の間をソディックグループが10年、20年と長期的な成長ができるように布石を打つ期間と考えています。長期的成長には奇手妙手は無いと言われていますが、ユーザーニーズに合致した製品開発、経営の合理化、原価低減と当たり前のことに粘り強く取り組むこと、その時々の変化にすぐに対応できる経営システム作り、スピード感のある人材育成チームづくりが肝心かと考えております。

Q2. 今後の方針をお聞かせください

今後の方針としては、ソディックグループ一体化によるシナジー効果の追求があります。今まで射出成形機や食品機械事業を担ってきたソディックプラスチック社を吸収合併しますが、今後はソディックプラスチックが築き上げた成果を引継ぎつつ、ソディックの経営資源を有効活用し、一層のシナジー効

果を追求することになります。具体的には、ソディックの放電加工機事業で培ってきた海外生産、海外販売の技術やノウハウ、設備を有効活用し、射出成形機や食品機械の海外での生産比率・販売比率ともに高め、コスト削減や市場の拡大を図り収益力の強化に努めてまいります。

Q3. 株主の皆様への利益還元についてお聞かせください

株主の皆様への利益還元は経営上の最重要課題であると認識しております。当社グループでは、将来の事業展開と経営体質の強化のために必要な内部留保を確保しつつ、安定的かつ継続的な配当を実施することを基本方針としており、当期の配当は第2四半期末配当5円、期末配当6円の年間11円とさ

せていただきました。なお、内部留保金については恒常的に業績の向上をはかっていくために、長期的視野に立った研究開発や設備投資に有効活用してまいりますので、ご理解のほどお願いいたします。

Q4. 最後に株主の皆様へ一言お願いします

私は昭和56年に入社しましたが、それ以来30余年、放電加工機を新たなステージに押し上げてきたソディックの一員として常に次世代のものづくりを見据えた研究開発に携わってまいりました。21世紀を迎える時期には米国のシリコンバレーでモーションコントローラの開発に従事していました。この時に聞いた好きな言葉が、“エレベーターク”です。シリコンバレーのベンチャーがその最先端技術をベンチャーキャピタルへ説明するのに、エレベータに居る時間しか与えられないという意味だそうです。シリコンバレーの名にふさわしい言葉だと

思いました。多くの会社が技術のしのぎを削ってスピードのある開発をしている地域での仕事は多くのことを学ぶことができました。社長に就任したこれからは、これまでの経験を活かしスピード感のある会社づくりと、経営者として、技術だけでなく政治、経済、世界情勢の次世代、次々世代の動きを見据え、長期的成長を成し遂げられるよう粉骨砕身社業に邁進してまいります。つきましては、前任者同様よろしくご支援を賜りますようお願い申し上げます。

当期の概況

当連結会計年度のわが国経済は、東日本大震災やタイ国の洪水による影響で一時低迷しましたが、サプライチェーンが復旧するにつれて生産活動は持ち直し、個人消費においても震災後に高まった自粛ムードが緩和されるなど、徐々にではありますが景気に回復の兆しが見え始めました。また、海外経済では、依然として欧州の債務問題がくすぶり続けたほか、中国では金融引き締め政策の影響により経済の成長ペースが鈍化するなど不透明感漂う状況が続きました。

当社グループにおいては、タイ国の洪水によりタイ工場が浸水の被害を受けて操業が停止するなど、生産体制に一時的な混乱が生じましたが、福井工場、中国の蘇州及び廈門工場において放電加工機の代替生産を進めて生産量を確保すると同時に、タイ工場近隣の洪水リスクの低い土地に工場の増設に着手し、洪水被害からの復旧と復旧後を見据えた生産体制づくりに努めました。

また、当社グループを取り巻く経営環境は、新興国市場の成長と国内ユーザーの海外シフトによりグローバル化が一段と加速しておりますが、この急変する環境に対応し、当社グループの競争力の維持・強化を図るため、連結子会社ソディックプラスチックの完全子会社化を実施しました。

以上の結果、当連結会計年度の売上高は前年同期比6億85百万円減(1.3%減)の535億28百万円となりました。また利益面では、営業利益は前年同期比1億3百万円減(1.8%減)の54億95百万円、

経常利益は前年同期比6億33百万円増(16.1%増)の45億77百万円、当期純利益は前年同期比17億90百万円減(35.0%減)の33億20百万円となりました。

次期の見通し

今後の見通しにつきましては、国内においては震災からの復興需要が見込まれることから緩やかな景気回復が期待されますが、海外経済においては、米国経済は堅調な回復が期待されるものの、欧州の金融危機の継続や中国経済の成長の鈍化、さらに原油・原材料価格の高騰なども懸念されており、予断を許さない厳しい環境が継続するものと見込まれます。

こうした厳しい事業環境に対処すべく、当社グループは、ソディックグループの主要な連結子会社である株式会社ソディックプラスチックの吸収合併(平成24年7月1日予定)を実施し、ソディックグループ全体での経営戦略の策定と遂行、経営資源の選択と集中等の諸施策を迅速に行い、ソディックグループの収益力の強化を図ってまいります。

平成25年3月期の当社グループの業績は、連結売上高570億円(前期比6.5%増)、連結営業利益55億円(前期比0.1%増)、連結経常利益47億円(前期比2.7%増)、連結当期純利益35億円(前期比5.4%増)と予想しております。

※上記の予想をする際に使用した想定為替レートは、対米ドル期中平均レート80円、対ユーロ期中平均レートは105円です。

連結業績ハイライト



連結貸借対照表

科目	期別	前期(35期) 平成23年3月31日 現在	当期(36期) 平成24年3月31日 現在
	資産の部		
流動資産		51,566	63,536
固定資産		27,944	29,456
有形固定資産		21,829	22,408
無形固定資産		2,567	3,527
投資その他の資産		3,547	3,521
資産合計		79,510	92,993
負債の部			
流動負債		32,457	41,899
固定負債		18,894	21,376
負債合計		51,352	63,275
純資産の部			
株主資本		28,701	31,851
資本金		20,775	20,775
資本剰余金		5,879	5,879
利益剰余金		4,181	6,891
自己株式		△ 2,135	△ 1,694
その他の包括利益累計額		△ 2,249	△ 2,198
新株予約権		23	23
少数株主持分		1,682	41
純資産合計		28,158	29,718
負債純資産合計		79,510	92,993

連結損益計算書及び連結包括利益計算書

科目	期別	前期(35期) 平成22年4月1日～ 平成23年3月31日	当期(36期) 平成23年4月1日～ 平成24年3月31日
	売上高		54,213
売上総利益		17,621	17,570
営業利益		5,599	5,495
経常利益		3,944	4,577
税金等調整前当期純利益		4,003	4,473
当期純利益		5,111	3,320
包括利益		4,336	3,317

連結キャッシュ・フロー計算書

科目	期別	前期(35期) 平成22年4月1日～ 平成23年3月31日	当期(36期) 平成23年4月1日～ 平成24年3月31日
	営業活動によるキャッシュ・フロー		3,216
投資活動によるキャッシュ・フロー		△ 167	△ 5,295
財務活動によるキャッシュ・フロー		△ 1,965	6,809
現金及び現金同等物に係る換算差額		△ 447	△ 95
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)		636	10,664
現金及び現金同等物の期首残高		15,804	16,615
新規連結に伴う現金及び現金同等物の増加額		189	36
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額		△ 15	—
現金及び現金同等物の期末残高		16,615	27,316

株式情報 (平成24年3月31日現在)

発行可能株式総数	150,000,000株
発行済株式総数	53,432,510株
株主数	16,095人

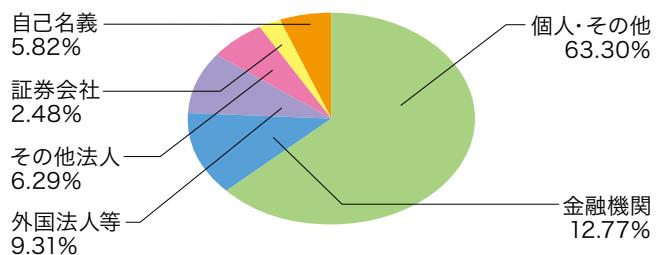
大株主 (平成24年3月31日現在)

株主名	名寄株式数(株)	持株比率(%)
株式会社ソディック	3,112,597	5.82
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	2,395,400	4.48
古川 利彦	1,195,975	2.23
有限会社ティ・エフ	1,150,000	2.15
ソディック共栄持株会	982,100	1.83
株式会社三井住友銀行	850,000	1.59
鈴木 正昭	726,260	1.35
株式会社北陸銀行	700,000	1.31
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	683,500	1.27
ソディック従業員持株会	539,270	1.00

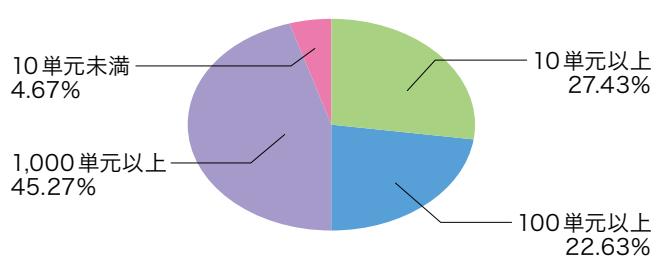
会社概要 (平成24年6月28日現在)

会社名	株式会社ソディック
所在地	本社 横浜市都筑区仲町台三丁目12番1号 〒224-8522 TEL:045-942-3111(代表)
設立	昭和51年8月3日
資本金	207億7,575万6,958円
代表者	金子 雄二
従業員数	270人(連結2,956人) ※平成24年3月末現在
連結子会社	29社
営業品目	形彫り放電加工機/ワイヤ放電加工機/細穴放電加工機/特殊放電加工機及び専用機(バレットチェンジャ、ロボットなど)/数値制御電源装置/放電加工機専用治具/ハイスピードミーリングセンタ/ナノ加工機/生産統合システム/精密射出成形機/工業用セラミック/産業機械向けリニアモータ/その他電気加工装置/放電加工機用ワイヤ電極線/精密金型・精密成形品/電子部材/各種ソフトウェア/食品機械/LED応用製品/委託研究及び製品開発/その他

所有者別株式分布状況 (平成24年3月31日現在)



所有株式数別株式分布状況 (平成24年3月31日現在)



役員 (平成24年6月28日現在)

代表取締役会長	古川 利彦
代表取締役副会長	藤原 克英
代表取締役社長	金子 雄二
専務取締役(管理・総合企画担当)	古川 健一
専務取締役(グローバル販売担当)	高木 圭介
専務取締役(放電加工機事業担当)	松井 孝
専務取締役(射出成形機事業担当)	藤川 操
常務取締役(食品機械事業担当)	大迫 健一
常務取締役(マシニング事業担当)	佐野 定男
常勤監査役	楠 左衛治
監査役(非常勤)	小山 秋吉
監査役(非常勤)	大木 國男
監査役(非常勤)	下山 和人

※監査役のうち、小山秋吉、大木國男及び下山和人は、会社法第2条第16号に定める社外監査役であります。

株主メモ

事業年度	4月1日～翌年3月31日
期末配当金受領株主確定日	3月31日
中間配当金受領株主確定日	9月30日
定時株主総会	毎年6月
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社
同連絡先	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 (通話料無料)
特別口座の管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第2部
証券コード	6143
公告の方法	電子公告により行う 公告掲載URL http://www.sodick.co.jp/ir-ir-f.html ※ただし、電子公告によることができない事故、その他のやむを得ない事由が生じた時には、日本経済新聞に公告いたします。

【ご注意】

- 株券電子化に伴い、株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっております。口座を開設されている証券会社等にお問合せください。株主名簿管理人(みずほ信託銀行)ではお取り扱いができませんのでご注意ください。
- 特別口座に登録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が特別口座管理機関となっておりますので、下記三菱UFJ信託銀行連絡先にお問合せください。
- 未受領の配当金につきましては、みずほ信託銀行、みずほ銀行、みずほインベスターズ証券の各本支店でお支払いいたします。

【株式に関するお手続きについて】

○証券会社等の口座に登録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 (通話料無料)
○住所・氏名等のご変更 ○配当金の受領方法の指定 ○その他のお手続き、ご照会等	口座を開設されている証券会社等にお問合せください。	

○特別口座に登録された株式

お手続き、ご照会等の内容	お問合せ先	
○特別口座から一般口座への振替請求 ○単元未満株式の買取(買増)請求 ○住所・氏名等のご変更 ○特別口座の残高照会 ○配当金の受領方法の指定(*)	特別口座の 口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 TEL 0120-232-711 (通話料無料) 【手続き書類のご請求方法】 ○音声自動応答電話によるご請求 0120-244-479 (通話料無料) ○インターネットによるダウンロード http://www.tr.mufig.jp/daikou/
○郵送物等の発送と返戻に関するご照会 ○支払期間経過後の配当金に関するご照会 ○株式事務に関する一般的なお問合せ	株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-8507 東京都杉並区和泉二丁目8番4号 TEL 0120-288-324 (通話料無料)

(*) 特別口座に登録された株式をご所有の株主様は、配当金の受領方法として株式数比例配分方式はお選びいただけません。

単元未満株式の 買増・買取制度について

株主様のご所有株式のうち、1単元(100株)未満の株式につきましては、証券市場で売買することはできませんが、次のいずれかの制度をご利用いただくことが可能です。

1. 単元未満株式買増制度

ご所有の単元未満株式とあわせて1単元となる数の株式を当社からご購入いただく制度です。

2. 単元未満株式買取制度

ご所有の単元未満株式を当社が買い取らせていただく制度です。